資料館の展示

秋期特別展示「飛鳥のイメージ」

飛鳥資料館では、毎年、春と秋の2回にわたって特別展示をおこなっています。今年度の特別展示は、春期に「遺跡を探る」と題しておこないましたが、秋期には飛鳥時代の復元イメージを集成した写真パネル展「飛鳥のイメージ」を2001年10月16日(火)～12月2日(日)の会期で開催しました。これだけのものが一同に会する機会が、これまでなかったためでしょうか、近畿圏だけからではなく、関東や九州など遠方からも数多くの方々が来館され、好評のうちに幕を閉じました。

秋期特別展示ポスター

歴史上の出来事や当時の人々の生活については、発掘調査や古代の資料の研究などから多くの論文が書かれ、さまざまなことがあきらかとなっています。しかし、こうした文章から古代社会の情景を具体的に思い浮かべることは、易しいことではありません。

これまで、当館では折りにふれ、飛鳥時代の都のありさまや人のいでたち、戦争の様子などを、目に見える形で復元し紹介してきました。1987年度の特別展示においては、春の「万葉乃衣食住」で古代の台所の様子を、秋の「壬申の乱」では、その戦いの様子を模型制作し展示しています。また、奈良文化財研究所としても、平城宮跡を訪れる人々が、奈良時代の都の姿を思い浮かべる一助となるよう、いくつかの建物と庭園を実物大で復元展示しています。

ただし、こうした復元は絶対的なものではありません。1997年度に復元された平城宮の朱雀門は、何千何万とある復元案の中の一つにすぎないのです。かといって、でたらめというわけではありません。長い年月を費やしておこなわれた調査・研究によって、もっともふさわしいと思われる姿で復元されています。いわば、調査・研究の賜物なのです。

しかし、資料の増加や発掘調査・研究の進展によって、改めなければならなくなることもあります。まったく異なるものとなる可能性もなくはないのです。それでもなおこうした復元の作業は、一方では古代史研究の成果を確認し、もう一方では多くの人々にそれを伝える重要な手段といえます。

秋の特展「飛鳥のイメージ」は、当館がこれまで制作してきたものを中心としながら、他館の協力も得て、飛鳥時代にかかわる復元イメージの集成を試みるものなのです。この展示を通して、飛鳥の歴史に対する一般の興味を少しは深めていただけたのではないかと思います。　　(飛鳥資料館)